

利益率5割アップの方法を ご存知ですか？

BPR（業務再構築）とは、利益率5割アップの「仕組づくり」とそれを担う人財育成目的です。（P2に具体例記述しています）—

以下が対象業務！当講座で利益率アップの技術を習得できます。

生産計画

工程管理

購買外注管理

在庫管理

品質管理

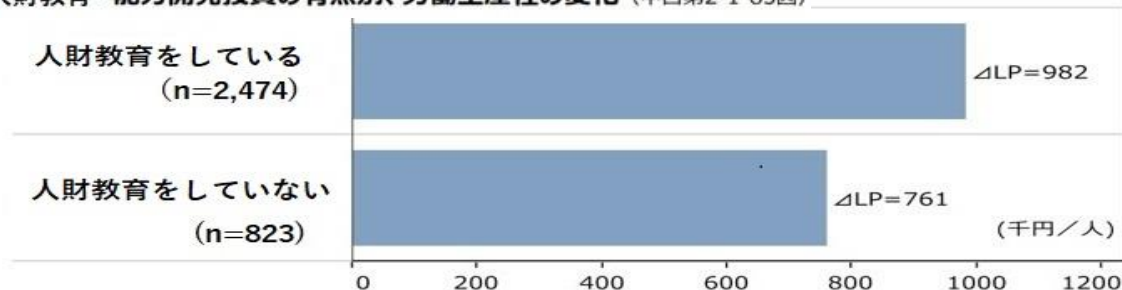
原価管理

部品表(BOM)

基準・標準化

経営者・役員への人財教育投資は、生産性を1.3倍に！（中白書2020年版）

図 人財教育・能力開発投資の有無別、労働生産性の変化（中白第2-1-85図）



注)LPとは、労働生産性

<お約束>

1) 次頁の業務毎の課題を解決する人財に育成します。

（注）独自学習方式：P4の2項・3項にご説明

2) 「ITSSレベル4」の能力を証明する経産省指定の修了証発行により、「人的資本」の可視化での企業評価の向上及び受講者の市場価値の向上が図れます。

受講対象者 ・経営者・役員及び後継者 ・BPR構築メンバー

中小企業は **受講料の95%の助成金（実質受講料 14,990円税込）**

大企業は **受講料の70%の助成金（実質受講料 83,120円税込）**

日時 : 2023年1月24日～2023年5月2日
（別添のカリキュラムを御参照下さい。）

受講形態 : ZOOM同時双方向型講座（定員10名）

受講料 : 25万円（税別）/人

申込締切日 : 2022年12月23日（金曜日）

【本講座の特徴】 実務の問題点を根本から改革する講座です。

「実際原価」は
ウソの原価です
!



では、「真の原価」
は、どのようにして
求めるのですか？

生産計画が毎日変わる、手配変更が追いつかない

計画変更は正しい。それに適応する生産計画及び迅速な手配計画の仕組みを学びます。

製造計画が熟達者しか立案維持出来ない

・属人性を排除した立案・維持方法を学びます

購買外注手配に手が回らない

・購買外注手配は、95%の自動化が可能です。その方法を学びます。

部品表(BOM)の作り方が分からない、標準仕様が数万点になりBOMが作れない

・部品表(BOM)は、昔の材料表から大きく変わり「工程手順を含んだ部品表」に変わりました。その際の「管理工程」の考え方を学びます。
・また、数万点に上る無限の標準仕様に対して、その解決策「仕様展開技法」を学びます。

工程進度が把握出来ず再計画が出来ない

購買外注手配と同様に、製造指図も95%以上の自動化が可能です。それを学びます。

品質生産性が悪い

生産性を2-30%引き上げ、品質の安定を図る事が重要です。その実際を学びます。

原材料在庫が合わない

在庫管理の目的は、「在庫精度の維持」です。その実現と、実現した結果、在庫が年率20%以上低減する方策を学びます。

出たところ勝負の試験検査を改善します

・試験検査依頼が、出たところ勝負ではなく、計画化する方策とロット遡及を学びます。

実際原価が分からない・・・解決します

・原価管理は、標準原価と実際原価がセットです。その実現可能な原価管理を学びます。

「売上比2%の新たな利益(製造業の利益率4%を6%に5割引き上げます)」

【効果の事例】

(例)年間売上高 100億円程度の企業の1年間のメリット

	内 容	計算式	予想利益	実績値
1	材料費の削減	50億円×1%	5,000万円	} 8~30%
2	在庫金額の削減	7億円×20% ×20%	2,800万円	
3	間接要員の能率向上(製造)	2億円×20%	4,000万円	
4	間接要員の能率向上(事務)	3億円×10%	3,000万円	
5	直接人員の生産性向上	10億円×5%	5,000万円	
利益合計			19,800万円	売上比2%

注1) 上記は1年間のメリットで、この利益は継続的に実現する。(定着化が続く限り)
注2) 上記は金額換算出来る項目で、受注納期短縮、多種少量生産の実現、納期回答の迅速化、見積書の迅速化、製造期間の短縮、クレームの減少等々の金額換算出来ない経営効果もある。注3) ビジネスモデルの高度化・人材育成効果が大きい!!



お申込みはこちら

<https://kan-lab.com/contact-jyuku>

または、メール「asguide@kan-lab.com」宛に申込可能です

また、FAXでお申込みの場合は、必要事項をご記入の上、「0798-55-8779」へFAX送信ください。
なお、誠に勝手ながら満席になり次第、申込を締め切らせていただきますので、ぜひお早めにお申し込みください。
申込締切日12月23日(金)

参加ご希望記入欄	<input type="checkbox"/> 受講する			<input type="checkbox"/> 詳しい説明を聞きたい		
貴社名(必須)	ふりがな					
ご住所(必須)						
TEL(必須)				FAX		
部署・役職名						
ご芳名(必須)	ふりがな					
E-Mail(必須)						
部署・役職名						
ご芳名(必須)	ふりがな					
E-Mail(必須)						
部署・役職名						
ご芳名(必須)	ふりがな					
E-Mail(必須)						

【お客様の個人情報の利用目的】

お客様がご記入頂きました個人情報は、本セミナー資料・受講票の送付および、弊社セミナーのご案内送付以外に使用いたしません。

また、第三者にこれを開示することはありません。

お客様が記載された情報は、(株)管理技術ラボの個人情報保護ポリシー(<http://www.kan-lab.com/policy.html>)に基づき、適切に管理いたします。

同意する

塾長

八木 弘泰

中小企業診断士
特種一種情報処理技術者



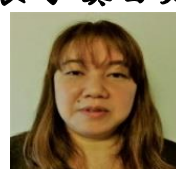
講師

吉川 正一



講師

長町 真由美



講師

八木 達也



50年間、6百社に及ぶ企業の業務再構築指導に従事し、又、企業診断業務は2千社を超える実績を持つ。IT技術+「管理技術」で年商比2%の「新たな利益」の実現を目的に業務再構築指導で活動している。1970年代に「死語」化した「管理技術の復興・普及」をライフワークとし各地でのセミナーは年間30回以上に及ぶ。

40年間、コンサル・SE経験を持ち、製造業を中心に数百社の業務再構築に従事、複雑系の仕組を「科学化」する才能の持ち主。「管理技術で利益の獲得」を担うASGUIDEツール開発の責任者(経産省システムアナリスト)

業務再構築指導は20年間に及び、指導実績も加工業から再生医療企業までの広範囲。職務分析技法の特許を取得(ITTVC認定 ファシリテータ)

作業改善をベースとした標準時間の設定、在庫動態分析からのロケーション設定等々の「標準化・標準化」を専門とする管理技術コンサル

CHECK

厚生労働省 人材開発支援助成金(人への投資促進コース)について

当該講座は「第四次産業革命スキル習得講座」に認定された講座で、受講前の申請により助成があります。

参考HP: [厚生労働省「人材開発支援助成金」](#)



クリック

不明点はお気軽にお問い合わせください!



「塾」の運用企業



株式会社

管理技術ラボ

Art & Science

TEL: 0798-77-2667 FAX: 0798-55-8779

URL: <http://www.kan-lab.com> e-mail: asguide@kan-lab.com

(参考資料) ~教育訓練の目標・修了評価の・基準・受講の利便性~

1. 教育訓練の目標レベル

具体的な到達目標	・現在の生産システムに携わっている技術者（SE等）は間違っ知識のもとに開発が行われているケースが多く、結果的に当初計画したシステムが構築されることは少なく、効果も効率も目標を達成できていないケースが多い。これはシステムの設計・開発者が生産システムの基礎的知識やスキルはもとより、必須技術である「管理技術」を習得できていないことが、その主たる要因と考えられる。この管理技術を習得することで正確で、効率的な生産システムを設計、開発する能力を習得し、既存システムの再構築という業務も担えることを目標にする。 (管理技術をベースにした、分析・設計・定着化・効果測定技術の取得も含む)
習得できるスキル	・生産システムは元来、工学的な理論に導かれて稼働するものである。その基本となる管理工学、生産管理、原価管理、品質管理などの理論と現場で長年培われたノウハウを形式知化したTEXTを軸に、即、役に立つ管理技術を習得できる研修となっている。 さらに、「基準化」「標準化」が、ICT化の前提であるが、これが準備されていない事が、生産システムの失敗の大半になっている。 これら「基準・標準化」例えば、リードタイム、標準時間等々の設定方法及びBOM等のデータ構築の設定方法も取得できる。 生産システムに必要なICT機能も、習得でき、企業の特性に合致したRFPが作成できる。

2. 教育効果の把握方法（修了評価）

到達目標に対する技術・知識の到達度の把握・測定方法	1. 毎回の「事例演習課題」の発表内容の評価 2. 毎回の「理解度テスト」の提出を求め、その「評価」、満点になるまで、再提出を義務としている。 3. 出席確認は、開始・終了時に「写真撮影」 4. 講義中は、「モニタリング担当」「事務局」が、受講者の「表情をモニタリング」し、理解度を推定し、講師に連絡。講師は、該当者に質問等の声掛け。「声掛け」記録での受講態度測定。受講者に注意勧告。（過去に該当者なし） 5. 5分間以上の「離席」は、再受講をして頂く。「モニタリング係」からの指摘。（過去に該当者なし）
修了認定基準に満たない受講者への措置	1. 出席率100%（欠席時は、再受講を求めています。再受講は無償です）。欠席があれば、修了証書の発行はしない。 2. 「理解度テスト」が満点であること。（再提出回数の制限はなく、受講期間を過ぎても満点になれば、修了証は発行する。 3. 毎回の「事例演習課題」の発表が、80点以上の評価であること。
修了認定の判断基準（出席率、修了テスト等の具体的な判定基準）	1. 前述のように、受講期間を過ぎても、「理解度テスト」は、満点になるまで、再提出を求める。 2. 補講制度があり、無制限に補講は、申し込むことが出来る。（定期補講と随時補講がある）修了認定基準まで、補講を継続し、修了して頂いている。 3. 補講制度 定期補講：講習日の前後2時間は、講師が待機し補講希望者に備えている。 随時補講：受講者の希望時間（主に就業時間外）に、できる限り沿うよう、実施している。 補講はすべて無償としている。

3. 受講の利便性

社会人に対する受講のしやすさ（利便性）を高める工夫	・すべての講義はオンライン・ライブ研修で行われる。 コロナ以前からこの方式を採用し、MAX20人以内の受講生に対し、あたかも1対1かのような講義と、受講者同士の対話や演習を交え、知識とスキルの習得を図っている。（zoomを使用） ①受講者は会社や自宅から受講することができる。②社会人の受講をしやすいするため、1週間に1度、午後の半日（4時間）を受講時間とし、14週間が一つの学習チームとなる。 ③講義の録画をオンデマンドで見ることができる。これは復習にも使用できる。 ④前述の「補講制度」の利用が非常に多い。（受講できない場合は、受講者の時間の都合がつく日時で、補講で必ず受講頂く。）
受講者に対するサポート体制	・①質疑は、メールまたは前述「補講制度」が活用されている。 ②「事務局」が、12時間以内に受講生からの、質疑に回答している。 ③「理解度テスト」「演習課題」の成績の悪い方には、「事務局」から、受講者に「補講」に申し込むようガイドしている。 ④受講中は、「モニタリング係」が、常に受講者の「表情」をモニタリングし、表情の曇った方、睡魔に襲われている方には、講師に連絡が入り、講師から該当受講者に声かけをしている。 ⑤受講者は、チャットでも質問でも質問できるが、「質問カード」をカメラに掲げる事で、講義を止め質問が出来る。また、講師から、講義内容の理解度を受講者に講義中にもとめ、受講者は「理解度カード」を提示することになっている。「理解度カード」は、5点法で3点以下の方が一人でもいれば、再度同じ講義を行うルールになっている。

[モノづくり企業におけるDX化によるBPR（業務再構築）責任者養成講座]カリキュラム

回数	日程	教育名	教育内容
1	01/24(火) 14:00 ～17:00	キックオフ DXによる利益の獲得 ーそれを実現する管理技術とはー	<p>「内容」</p> <ul style="list-style-type: none"> ①モノづくり企業におけるDX ②DXによる利益の獲得 ③DXの前提ー管理技術とは？ <p>「到達目標」</p> <ul style="list-style-type: none"> ①DX実現時の利益を理解する ②管理技術がDX推進を支える事を理解する ③ICTと業務知識だけではBPR構築は無理な事を知る。
2	01/31(火) 13:00 ～17:00	DX実現のための、 業務知識と管理技術及びICT技術 (生産計画、資材計画のDX推進)	<p>「内容」</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「生産計画の業務知識」 ②生産計画の目的・課題 ③管理方式の説明（計画立案・検証方式） ④生産計画DXの成功例と業務フロー （生産計画ー製造計画・購買計画） <p>「到達目標」</p> <p>講義／演習を通じて、受講企業ごとの生産計画のDXの推進と、それを支える管理技術の適応方法を習得する</p>
3	02/07(火) 13:00 ～17:00	DX実現のための、 業務知識と管理技術及びICT技術 (工程管理のDX推進)	<p>「内容」</p> <ul style="list-style-type: none"> ①工程管理の「業務知識」 ②工程管理の目的・課題 ③管理方式の説明（作業指導、作業指示 作業標準・標準時間設定の各方式） ④工程管理のDXの成功例と業務フロー （製造計画ー作業指図ー実績ー作業指導） <p>「到達目標」</p> <p>講義／演習を通じて、受講企業ごとの工程管理のDXの推進と、それを支える管理技術の適応方法を習得する</p>
4	02/14(火) 13:00 ～17:00	DX実現のための、 業務知識と管理技術及びICT技術 (購買・外注管理のDX推進)	<p>「内容」</p> <ul style="list-style-type: none"> ①購買管理の「業務知識」 ②購買外注管理の目的・課題 ③管理方式の説明 （MRP・OP・製番・カンバンの各方式） ④購買管理のDXの成功例と業務フロー （購買計画ー発注ー納期管理ー受入ー検収ー買掛 ー支払処理） <p>「到達目標」</p> <p>講義／演習を通じて、受講企業ごとの購買管理のDXの推進と、それを支える管理技術の適応方法を習得する</p>

回数	日程	教育名	教育内容
5	02/21(火) 10:30～ 12:00 13:00～ 17:30	業務毎の管理技術 実習 (作業管理 実習)	<p>「内容」</p> <p>①I Eの基礎知識（動作経済の原則等）を学習し ②「レゴブロック」による我見による実技組立と ③動作経済の原則を学んだ実技組立により、モーションマインド体験し効果を実感する。 ④標準時間の設定を学びICTによる作業指導を学ぶ。</p> <p>「到達目標」 I Eの知識が、生産性を20～50%高める事を、体感する事、作業標準の設定方法と標準時間の設定を学び、ICTによる作業指導を学習する。</p>
6	02/28(火) 13:00 ～17:00	DX実現のための、 業務知識と管理技術及びICT技術 (在庫管理のDX推進)	<p>「内容」</p> <p>①在庫管理の「業務知識」 ②在庫管理の目的・課題 ③管理方式の説明（循環棚卸、出庫方式、原材料倉庫とライン倉庫の各方式） ④在庫管理のDXの成功例と業務フロー（出庫指図、ライン倉庫、循環棚卸）</p> <p>「到達目標」 講義／演習を通じて、受講企業ごとの在庫管理のDXの推進と、それを支える管理技術の適応方法を習得する</p>
7	03/07(火) 13:00 ～17:00	DX実現のための、 業務知識と管理技術及びICT技術 (部品表「BOM」管理のDX推進)	<p>「内容」</p> <p>①部品表管理の「業務知識」 ②部品表管理の目的・課題 ③管理方式の説明（多様化時代の部品表－仕様展開の技法、E-BOM／M-BOMの連携、BOMの精度維持方式） ④部品表管理のDXの成功例と業務フロー（仕様展開、CAD連携、設変／新旧切り替え）</p> <p>「到達目標」 講義／演習を通じて、受講企業ごとの部品表管理のDXの推進と、それを支える管理技術の適応方法を習得する</p>

回数	日程	教育名	教育内容
8	03/14(火) 13:00 ～17:00	DX実現のための、 業務知識と管理技術及びICT技術 (受注出荷管理のDX推進)	<p>「内容」</p> <p>①受注出荷管理の「業務知識」 ②受注出荷管理の目的・課題 ③管理方式の説明（製造依頼と出荷指図、受注引当と出荷指図引当、製品の期間別在庫） ④受注出荷のDX成功例と業務フロー (受注、出荷指図、受注引当と納期回答、生産計画)</p> <p>「到達目標」 講義／演習を通じて、受講企業ごとの受注出荷管理のDXの推進と、それを支える管理技術の適応方法を習得する</p>
9	03/28(火) 13:00 ～17:00	DX実現のための、 業務知識と管理技術及びICT技術 (品質管理のDX推進)	<p>「内容」</p> <p>①品質管理の「業務知識」 ②品質管理の目的・課題 ③管理方式の説明（受入・工程・製品検査方式・出荷承認方式・再検査方式・試験検査計画立案、検査有効期限、ライン化） ④品質管理のDX成功例と業務フロー (検査計画、検査依頼・合否判定、再検査計画、検査成績書、トレサビリティ)</p> <p>「到達目標」 講義／演習を通じて、受講企業ごとの品質管理のDXの推進と、それを支える管理技術の適応方法を習得する</p>
10	04/04(火) 13:00 ～17:00	DX実現のための、 業務知識と管理技術及びICT技術 (原価管理のDX推進)	<p>「内容」</p> <p>①原価管理の「業務知識」 ②原価管理の目的・課題 ③管理方式の説明（標準原価計算、実際現計算、チャージ計算、棚卸評価法、原価差異分析法） ④原価管理のDX成功例と業務フロー (標準／実際原価計算、原価差異分析、原価シュミレーション、配賦・チャージ計算)</p> <p>「到達目標」 講義／演習を通じて、受講企業ごとの原価管理のDXの推進と、それを支える管理技術の適応方法を習得する</p>

[モノづくり企業におけるDX化によるBPR（業務再構築）責任者養成講座]カリキュラム

回数	日程	教育名	教育内容
11	04/11(火) 10:30～ 12:00 13:00～ 17:30	業務毎の管理技術 実習 (原価チャージ計算 実習)	<p>「内容」</p> <p>①自社会計データを使用し、自社のチャージ計算を実習する。 ②予定賃率、実際賃率を求める ③「生産管理DX化 学習ライブラリ」（全体）を使用し自社のチャージ計算の仕組みを構築する。</p> <p>「到達目標」</p> <p>自社のチャージ計算を構築できる。 予算管理からの予定賃率、受講企業の会計データからの実際賃率を求める。</p>
12	04/18(火) 14:00 ～17:00	生産管理のDX事例 (「生産管理のDX 学習ライブラリ」（全体）で疑似体験)	<p>「内容」</p> <p>①受注出荷から原価管理までのDXの実際を、「生産管理DX 学習ライブラリ」（全体）を使用して、マン/マシンフローを理解しながら、実機で演習する。</p> <p>「到達目標」</p> <p>各單元ごとに学んできた、業務ごとのDXを、業務間の連携を再認識し、DXの全体イメージを確立する。</p>
13	04/25(火) 14:00 ～17:00	分析・設計・定着化・効果測定技術	<p>「内容」</p> <p>BPR構築の「分析・設計・定着化・効果測定技術」の概要を学ぶ。</p> <p>「到達目標」</p> <p>①現状分析－基本設計－RFP作成－詳細設計－データ構築及び定着化技法の概要習得 ②現状分析の内、「個人別職務分析」を、分析ツールを使用して、受講者自身の分析を行い、有用性を実感する。</p>
14	05/02(火) 14:00 ～17:00	成果発表 －受講者ごとの「DX計画」の発表。受講者同士の評価、講評 DX「共通原則」の講義	<p>「内容」</p> <p>①成果発表 受講者ごとの、成果発表 の実施 ②管理技術の「共通原則」講義</p> <p>「到達目標」</p> <p>DX実現のためBPR構築を管理技術を駆使して、どのように社内に広めるか、BPR構築の開発計画を立案できる。</p>